

巻 頭 言

4月の熊本地震でお亡くなりになった方々に謹んで哀悼の意を捧げ、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。2011年3月の東日本大震災の復興もなかなか進まぬなか、熊本地震でも、多くの人命が失われ、甚大な被害から「前震」「本震」という言葉を知ることとなりました。2か月余りが過ぎた現在でも熊本地方を中心に余震が頻発しており、全国いっどこで更なる大地震が発生するか予断を許さない状況です。国土は全世界の陸地の約0.25%にもかかわらず活火山の数は全世界の約7%を占める（内閣府「平成22年度版防災白書」）、そんな「地震大国」に私たちは暮らしています。筆者にとっても地震災害は他人ごとではなく、2007年3月の能登半島地震では実家が全壊という被害に遭いました。思い出深い実家を取り壊され、更地になるのを見届けるのは辛いものがありましたが、幸いにも家族に被害はなく、その後、家も建て直すことができました。

今年2016年は、昭和61年（1986年）4月の大学院家政学研究科修士課程（当時の名称）創設から三十周年を迎えます。文学系の大学院の開設（1974年）から遅れること十年余での待ちに待った母校での家政学系の大学院設置でした。一旦退職をし、生活造形学専攻の第一期生として修士課程に入り直し学ばせていただく機会を得た身には感慨も一入です。続いて平成元年（1989年）には生活機構研究科博士後期課程が開設され、現在は社会人入学にも様々な優遇措置の制度が整っており、大学院教育はますます充実したものとなっています。

この10月には、第5代学長人見楠郎先生の生誕百年を迎えます。人見先生は創立八十周年を見届けるかのように、一連の記念事業が滞りなく執り行われたのちに逝去されました。その八十周年記念事業としては「世界遺産ホイアン展」「トルストイ展」そして筆者の関わった「唐招提寺展」の3つの展覧会が同時開催されました。その折、唐招提寺所蔵国宝「方円彩糸花綱」の復元的研究に携わる荣誉に恵まれ、多くの共同研究者と力を合わせ、複製を完成し、唐招提寺に奉納させていただきました。また、2003年の日越外交樹立三十周年記念事業の国際シンポジウムへの参加を契機にベトナム調査研究にも携わらせていただき、ベトナムでの共同研究も十年の節目を迎えることができました。

大正9年（1920年）、5名の教員と8名の学生で始まった昭和学園も東京オリンピック、パラリンピックを迎える2020年には創立百周年の記念の年を迎えます。卒業生も十万人近くとなります。環境デザイン学科はこれからも地域や企業と連携した各種のデザインプログラムやDP総合演習など様々な活動に積極的に取り組み、人が快適に暮らせる環境の創造を目指し、4コース（建築・インテリアデザイン、プロダクトデザイン、服飾デザインマネジメント、デザインプロデュース）の独自性を尊重しつつ更なる発展と充実に向けて教育と研究に真摯に取り組んでまいります。

本紀要には、環境デザイン学科に所属する教員の研究成果と共に、平成27年度の卒業生全員の卒業研究のテーマを巻末に記載しています。また、本学科の特徴的なカリキュラムである平成28年度デザイン計画特講Aの講師一覧も掲載しています。併せてご高覧いただければ幸いです。

（環境デザイン学科長 谷井淑子）